

# 台風禍 東海各地に

日本列島を縦断した大型の台風19号は、十三日夜から十四日未明にかけて東海地方を通過し、十四日午前中も吹き返しの強風が続いた。今月初めの台風18号から間もない上陸で懸念された土砂災害による被害は、三重県南伊勢町で物置の半壊が確認されたのみ。ただ、各地で風にあおられて重軽傷を負った人もおり、交通機関の乱れで足止めを食った人たちからはため息も漏れた。

## 浸水、停電 けが人も

東海地方では十四日まで、愛知、三重県で計四人が強風の影響で重軽傷を負った。激しい雨や風で住宅が床下浸水や停電したほか、各地で避難勧告や避難準備



運転取りやめが相次ぎ、乗客の対応に追われる駅員＝13日午後8時40分、JR名古屋駅で

情報が出された。

愛知県半田市では、自宅の扉を固定していた女性(40)が強風で転び、左足を骨折する重傷。名古屋市内区では六十代男性が転倒し

て軽傷を負った。三重県でも伊賀市の宿泊施設で従業員の男性(40)が屋外での作業中に風にあおられて脚立から落ち、左足首の骨を折ったほか、紀北町で自宅前の植木鉢を移動していた女性(50)が作業中に尻もちをつき胸椎を圧迫骨折した。三重県内では、いなべ市の員弁川で十三日午後九時ごろ、氾濫危険水位を超過

日本列島を縦断した台風19号は、名古屋市全域で避難準備情報が発せられるなど、東海地方でも最大限の警戒を払ったが、目立った被害はなかった。名古屋大地球水循環研究センターの上田博教授(気象学)は「休日での流れも少ない中、列島縦断の間に勢力が弱まるなど好条件が重なった」と分析する。

え、東員町の住宅一棟が床下浸水した。津市と菟野町では六千八百九十六世帯に避難勧告が出され、自主避難も含めて千四百二十七人が一時避難した。

岐阜県でも岐阜市と大垣市で住宅三棟が床下浸水。岐阜、高山市などの千五百六十六世帯に避難勧告が出され、四百四十六人が一時、公民館などで過ごした。愛知県では避難勧告はなかったものの、十三日深夜に一時六百三十二人が避難した。

中部電力によると、十四日午後零時半までに管内の延べ四千九百五十戸が台風19号の影響で停電した。三重県内で国道や県道の最大四十六カ所が冠水するなど一時通行止めになった。

新幹線で一夜不安げな乗客  
十三日夜から十四日未明に東海地方に最接近した台風19号。鉄道や空の便など交通機関にも影響が出た。

教室に入ると、狭い玄関が設けられていた。ベニヤ板で仕切られた小さな台所と四畳半ほどの居間が続く。愛知県美浜町の日本福祉大付属高校で先月開かれた文化祭。一年E組の生徒が、東京電力福島第一原発事故で避難する福島県川俣町の仮設住宅の一部を教

JR東海は十三日、管内の四百八十三本が運休。一部運休し、約八万二千七百人に影響した。名古屋駅では、目的地に到着できなかった三十五人が新幹線車両で一晩を明かした。

大阪府豊中市の整骨院経営内田泰文さん(40)は、大阪行ききのバスが台風で運休に。新幹線に乗ったが、帰宅できなかった。「始発で出ても、仕事に間に合うかどうか」と不安そうな表情を浮かべた。

出張先の津市に向かう予定だった東京都渋谷区の英語教師セバスチャン・ジョズビアックさん(30)は「自然のことで仕方ない。もう少し早く出発するべきだった」と肩を落とした。

## 列島縦断し 勢力弱まる

今月初め、浜松市に上陸して首都圏を直撃した18号に対し、19号は早い段階で九州に上陸し、四国、本州と再上陸。東海地方を通過する際も18号よりやや北側のルートを通り、上田教授は「台風が九州、四国、本州と列島を縦断すると、東海地方に近づくとともに勢力は弱まる。東側の風の影響で海岸部は風が強かったが、内陸部はそこまでなかった」とみる。

また、台風の通過スピードが速かった点を挙げ「雨の持続時間が少なかったため、大規模な土砂災害も避けられたのでは」と推測。その上で「連休の最終日での流れも少なく、鉄道も早めに運休を決め、行政も的確に情報提供をしたことが奏功した」と話す。

### 目録

#### 被災地を思う

室に再現展示した。川俣町で八月にあった同校和太鼓部の演奏に同行した生徒たちが、直接聞いた被災者らの声を中心に、被災地の「今」を紹介した。「故郷に帰りたいけど帰れない、という避難者の言葉を伝えたい」「これまで人ごとだったが、現実を目の

港島内に足止め。島袋幸子さん(40)は「昨晩はロビーの床にマットを敷いて寝た。早く帰りたい」とうんざりした表情で語った。

#### 川に男性意識不明

緑区大高

十四日午前九時五十分ごろ、名古屋市緑区大高町中川の太高川で、六十〜七十代くらいの男性がつつぶせで浮いているのを、通り掛かった同市南区の無職男性(40)が見つけた。男性は救助されて病院に搬送されたが、意識不明の重体。

緑区によると、発見場所は太高川と扇川が合流する付近で、新大高橋の北約六十メートルの地点。普段より増水しており、水深は一・八メートルほどあったとみられる。男性はリュックサックを背負い、赤色ジャンパーに黒色のジャージと黒い靴を着用していた。署が男性の身元と原因を調べている。

## 製造容疑 初の逮捕

認めているが、いずれも「指定薬物を使っていない」と犯意を否認している。

京都と兵庫県の三店舗に商品として卸され、月百万〜二百万円を売り上げている。

(過労運転等の禁止)違反の疑いで、ブラジル国籍の愛知県知立市昭和七、会社員トス・サントス・チアゴ

署によると、信号待ちの車に追突する物損事故を起